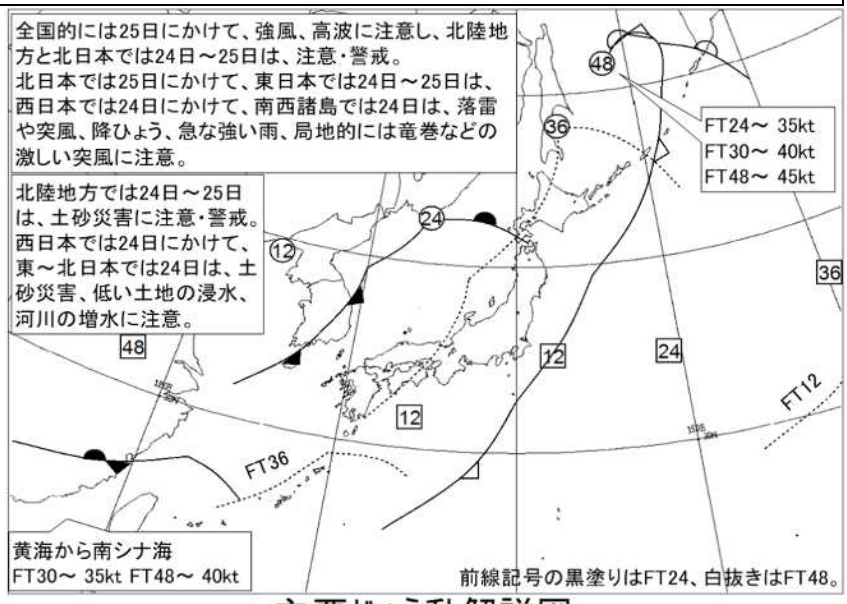
短期予報解説資料　２０２６年１１月２３日０３時４０分発表

気象庁



主要じょう乱解説図

１．実況上の着目点

① 西日本付近には500hPa 5340～5520mのリッジに対応した高気圧があって南東へ移動。南西諸島～東日本にかけては、高気圧に覆われている。

② 日本海を下層の南西風先端に対応した気圧の谷が東進。

③ バイカル湖の東を500hPa 5220m以下の寒冷渦が東南東進。

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の高気圧は23日夜にかけて日本の東へ中心を移す。南西諸島～東日本は高気圧に覆われて晴れる所が多い。

② 1項②の気圧の谷は850hPa θe291K以上の下層暖湿気を伴い、23日午後には北日本へ接近する。

③ 24日～25日にかけて、1項③の寒冷渦は沿海州からオホーツク海へ進み、寒冷渦からのびる5220～5460mのトラフが深まりながら本州付近を通過する。トラフに対応して23日朝には黄海に低気圧が発生し、23日夜には前線を伴って発達しながら日本海を北東進し、24日夜にはオホーツク海へ進む。また、500hPa 5760m付近の強風軸に対応して23日夜には東シナ海に前線が発生して東進し、日本海を進む低気圧からのびる寒冷前線と一体化しながら本州付近を通過して、24日夜には千島近海～日本の南にのびる。低気圧や前線と2項②の気圧の谷に向かって暖かく湿った空気が流れ込むため、大気の状態が非常に不安定となって雷を伴い激しい雨が降り、大雨となる所がある。西日本では24日にかけて、東～北日本では24日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。北・西日本では24日にかけて、南西諸島と東日本では24日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

④ 25日は、2項③の寒冷前線が日本の東へ進み、本州付近は一時的に西高東低の気圧配置となる。東～北日本では850hPa -6℃以下の下層寒気が流れ込み、山地を中心に雨は雪に変わる。また、平地では雨が降り、2項③の雨と共に大雨となる所がある。北陸地方では24日～25日は、土砂災害に注意・警戒。また、上空寒気が流れ込んで大気の状態が不安定となる所がある。東～北日本の日本海側では24日～25日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

⑤ 2項③の前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹いて波が高くなり、しける所がある。北日本では24日～25日は、北陸地方では24日は、強風に注意・警戒し、北陸地方では24日～25日は、高波に注意・警戒。全国的に25日にかけて、強風や高波に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　①雨量(06時からの24時間)：多い所（100mm以上）はない。
②波浪(明日まで)：東北 5、北海道・伊豆諸島・東海・北陸・近畿・中国・沖縄 4、その他広く 3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　発表の予定はない。

---

[1]量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。